



© Wojciech Grzedzinski



© Sasha Gusov



© Marco Borggreve



© Mascha Mosconi



© Anne-Laure Lechat



© Andrej Grlic

**2021年** **ショパン・コンクール第3位**。  
ミュゼが世界一好きなホールと語るガルシア・ガルシアは、ひたすらに音楽の愉しさを体現してくれる稀有なピアニスト。思わず漏れてしまう歌声はご愛敬。

**2019年** **チャイコフスキー・コンクール優勝**。昨年の来日でセンセーションを巻き起こしたピアニスト。テクニック、プログラム全体を通しての構成力、カリスマ性…何をとっても超一流！

早くから神童として名をはせた英国期待のピアニスト。若くして世界のオーケストラや共演者から絶大な支持を得ている。力に任せないキラキラとした特異なサウンドと洞察力で観客を魅了！

音楽と正面から向き合うために一時期ピアノを中断。復帰後ロン＝ティボー優勝、世界の音楽祭等に招かれ活躍中。「だいたい哲学がダジャレを考えている」と語る異色の頭脳派ピアニスト。

この子、凄いです！リスト(15歳)、ジュネーヴ(16歳)、ルービンシュタイン(17歳)他にも主要な国際コンクールで優勝の快進撃中！今、巷を賑わす恐るべき才能の初来日リサイタル！

音楽を「物語る」天性によって聴き手を陶酔させる稀有な才能。2015年浜松優勝、2021年ショパン・コンクール2位、以来各地でsold outをまきおこし日本でもおなじみのピアニスト！

**マルティン・ガルシア・ガルシア**  
*Martín García García*

**アレクサンドル・カントロフ**  
*Alexandre Kantorow*

**ベンジャミン・グローヴナー**  
*Benjamin Grosvenor*

**三浦 謙司**  
*Kenji Miura*

**ケヴィン・チェン**  
*Kevin Chen*

**アレクサンダー・ガジエフ**  
*Alexander Gadjev*

1996年ヒホン生まれ。26歳にして、国際的に最も活躍するピアニストの一人とされている。2023年は世界各地(米国、アジア、欧州)で約80回のコンサートを行い、韓国、メキシコ、ブラジルでデビューを果たした。また、日本の他世界各国にて素晴らしいリサイタルを開催、NHK交響楽団、ソウル・フィル、ハンブルク響、ワルシャワ・フィル等の名だたるオーケストラと共演している。2022年にはニューヨークのカーネギーホールでのデビューや、日本でのツアーは14公演で25,000人を動員するなど、大成功を果たした。2021年クリーブランド国際コンクール第1位、2021年ショパン国際コンクール第3位など、世界的に高い評価を得ている。2022年にはデビューアルバム「ショパンとヒズ・マスター」をリリース。彼はレイナ・ソフィア音楽学校を卒業、同校ではガリーナ・エギザロヴァ教授に10年間師事、ソフィア王妃から「最優秀学生賞」を受ける。また、ニューヨークのマネス音楽院にて著名なピアニスト、ジェローム・ローズに3年間師事、修士号を取得している。

22歳で挑んだ2019年のチャイコフスキー国際コンクールにおいて、フランスのピアニストとして初めて優勝。同時にコンクールの歴史上3度しか与えられていないグランプリも獲得した。ゲルギエフ指揮マリンスキー劇場管、クルレンツィス指揮SWR響、バッパーノ指揮ベルリン州立管などと定期的に演奏するほか、パリ管、フィルハーモニア管、ミュンヘン・フィルなどと共演。室内楽にも精力的で、2022年から音楽祭"Les Rencontres Musicales de Nîmes"のアーティストック・ディレクターを務めている。数々の録音はディアパソンドールやショク賞などを獲得し、2019年にはフランス批評家協会賞の年間最優秀新人音楽家部門を受賞。2020年には、サン＝サーンスの協奏曲アルバムでヴィクトワール・ド・ラ・ミュージク・クラシックの年間最優秀録音部門と年間最優秀器楽ソリスト部門を同時受賞するという快挙を成し遂げた。2024年のギルモア・アーティスト賞を受賞。

イギリスのピアニスト、ベンジャミン・グローヴナーは、その特異なサウンド、洞察力に満ちた解釈、目覚ましい演奏によって、国際的な注目を集めている。彼のアプローチは、複雑を極める技法を意のままに操るヴィルトゥオジティはもとより、類まれな深い楽曲理解によっても支えられている。そして近來のイギリスから出現した最も重要なピアニストとみなされるとともに、欧米ではスター・ピアニストとしての地位を確立している。最近ではグラモフォン誌がレコーディング史上トップ50のピアニストのひとりに選出している。これまでイギリスのすべての主要オーケストラはもとより、パーヴォ・ヤルヴィ、セミヨン・ビシュコフ、リッカルド・シャイー、ケント・ナガノ、エサ＝ベッカ・サロネン等世界の名だたる指揮者・オーケストラと共演を重ねている。また過去10年にわたってBBCプロムスの常連となっている。録音では2011年にデッカ・クラシックと契約し、英国の音楽家としては史上最年少、英国のピアニストとしては約60年ぶりの契約となった。

アルグリッチが審査員長を務めたロン＝ティボー・クレスパン国際コンクールにて優勝及び3つの特別賞を獲得、新たな才能としてその名を世界に知られることになる。これまで第4回マンハッタン国際音楽コンクール金賞、第1回Shigeru Kawai国際ピアノコンクール優勝など各賞を受賞。ウィグモアホールはじめ世界の数々の会場に招かれる。神戸生まれ。4歳から自らピアノを始め、13歳で単独渡英、ロンドン・パーセル・スクールに入学。ロシャン・マガブ及びウィリアム・フォンのもとでピアノを学ぶ。2011年ロンドン王立音楽アカデミー、ベルリン芸術大学、カーティス音楽院すべて合格、ベルリン芸術大学にてクラウス・ヘルヴィヒ氏に師事、研鑽を積む。2012年、音楽の世界から一度離れる決意をし、ベルリン芸術大学を中退。日本で様々な仕事をしながらボランティア活動にも参加。2014年同じくベルリンハンス・アイスラー音楽大学に入学、エルダー・ネボルシン氏に師事。ワーナークラシックス・ジャパンよりアルバム《アイデンティティ》をリリース。

8歳でカナダ音楽コンクールに優勝、10歳になる前にはカナダ放送協会による「30歳以下の注目すべきカナダ人クラシック演奏家30人」、マククリーンズ誌による「100人の注目すべきカナダ人」の一人に選出された。コンクールでの成功は、ケヴィンに大きな勢いと国際的な注目をもたらした。上記のほかにも、ブダペストのフランツ・リスト国際ピアノ・コンクール(2021年)では史上最年少の出場者として優勝、ルガーノのモーツァルト国際ピアノコンクール(2020年)、ヒルトン・ヘッド国際ピアノコンクール(2020年)、ミネアポリスで開催された国際ピアノコンクール(2019年)、第76回ジュネーヴ国際音楽コンクール(2022年)、第17回アルトゥール・ルービンシュタイン国際ピアノコンクール(2023年)でも、それぞれすべて優勝を果たした。現在アリエ・ヴァルディ教授に師事、18歳にしてすでに熟達したピアニストであり作曲家でもある。オーケストラとピアノのための作曲に才能を発揮し、委嘱作品、その演奏は高い評価を得て、これまでに5曲の作品が出版されている。

2021年第18回ショパン国際コンクールで第2位及びクリスチャン・ツィメルマン賞(ソナタ最優秀演奏賞)を受賞。2021年シドニー国際コンクールで優勝。2018年モンテカルロのワールド・ピアノ・マスターズで優勝。2015年第9回浜松国際ピアノコンクールで優勝および聴衆賞を受賞。父に師事し、9歳の時にオーケストラと初共演、10歳で初リサイタルを開いた。17歳でイタリアの教育機関で最高評価を得た若手だけが競うコンクール「プレミオ・ヴェネツィア」の覇者となった。その後現在にいたるまで出場するコンクールでほぼすべて優勝。2019年にはBBCニュー・ジェネレーション・アーティストに選ばれ、23年にはイタリアの権威あるアッピアーティ賞と、スロベニアのプレシェレン賞を受賞。そして2023/24年からUnione Musicaleのアーティスト・イン・レジデンスを、また「ノヴァ・ゴリツィア / ゴリツィア欧州文化首都2025」の文化大使を務める。音楽祭への参加も多く、ヴェルビエ音楽祭、オールドバラ音楽祭などに参加している。